

軍 興



www.columnland.net

數字の乱

2010年1月17日某T城

「殿！敵陣です！」

「何！ そうか、奴らが攻めて来よったのか。だが大丈夫じゃ、奴らを倒すための手立てはとってある。わしらが負けるはずはない、自信を持てい！」

「さすが殿！ 皆で迎え撃とうぞ！」

第壱軍

「敵を倒すには四角で囲まれた穴を狙うのじゃ！」

「殿！上手くいきましたぞ。」

「よし、その調子だ！」

第貳軍

「今度はず矢を持ってやってきましたぞ！」

「大丈夫じゃ、ず矢の頂点をちゃんと求めてあげれば大したことはない。」

「なるほど、さすが殿じゃ！」

第參軍

「今度は鋭利な武器で攻めてきましたぞ！」

「恐れるでない。先端の尖った部分の角度を求めれば済むことじゃ。」

第四軍

「殿！敵が3色の弾を撃ってきて圧されています。城まで来るのも時間の問題です！」

「待て、落ち着くのじゃ！ あれ……おかしいぞ、穴に上手く入らない、どこかで計算を間違えてしまっ」

「それでは解答をやめてください」

孤軍日記

第二小隊

〔十一月十六日 月曜日〕

今日の罰ゲームはケツバット。Aがバット役。BとCは僕を押さえつける役。Dは撮影係。お風呂に入ったアザになっているのが分かって、何だか涙があふれた。クラスのみんなも先生もおそらく何か気づいているだろうけど、何も言っていない。親は全く何も知らない。孤軍奮闘とはこのことか。明日は何されるんだろう。そういえばズボンのポケットに入ればなしだなあ。

〔十一月十七日 火曜日〕

今日はA達に変な液体を飲まされた。あれは明らかに人間の飲み物じゃなかった。その場ではなんとか持ちこたえたけど、学校の帰りに吐いてしまった。今も少しおなかの調子が悪い。明日の罰ゲームは僕の服を脱がして裸にして、それを写真に撮ってあちこちにばらまく事らしい。馬鹿な奴らだ。どんなことされても 奴らのためのお金なんか用意する気はない。

〔十一月十八日 水曜日〕

今日は裸にされる罰ゲームの日。でも当然お金なんて用意していない。もう嫌になったので、生まれて初めて学校をさぼった。家や学校から遠く離れた公園に行つて、ずっとゲーム機で遊んでいた。夢中になってしまい、気がつくとすっかり暗くなっていたので帰ることにした。その帰り道、A達に会ってしまった。

「ずる休みしやがつて。今から学校に来いよ。罰ゲームやるぞ」。Aがそう言つて僕に近づいてきた。僕はとっさにポケットからナイフを取り出した。

そこから先はよく覚えていない。誰かが悲鳴を上げていた気がする。誰かが「ごめんなさい」と何度も叫んだ気がする。我に返ると僕の手や服にべつとりと何かがくっ付いていた。辺りが暗くてそれが何なのか分からない。路上には倒れてびくりとも動かないA、B、C、D。怖くなって、走つて家に帰った。運よくお母さんに見つからずに自分の部屋に入れた。そこで初めて自分の手や服がどうなっていたのか分かった。今日はこれ以上書きたくない。もう寝る。

〔十一月十九日 木曜日〕

結局、全然眠れなかった。朝のニュースでは四人とも死亡したと言っていた。犯人の目撃情報はなし。でもほととするとどこかかえつて落ち着かなかつた。今日は授業がすべて中止になり、全校集会があつた。みんなショックを受けた顔をしていたけど、僕はそれ以上に青ざめた顔をしていたと思つた。

いつかA達に使つたら清々するだろうな。そう思つてナイフを持ち歩いていたのに、実際使つてみたら、こんなに苦しい思いをするなんて。

〔十一月二十日 金曜日〕

お母さんにばれた。庭に埋めた血の付いたナイフが見つかったのだ。もつと深くに埋めておけば良かったのに。お母さんは恐ろしい形相で自首を迫ってきた。怖くて、お母さんを何とかしなくちゃと焦つて、首を絞めてしまった。こんなに簡単に人が殺せる。この世界が嫌だ。

お母さんは優しくかったのに。毎日お弁当を作つてくれたのに。病気になる時は看病してくれたのに。いつも見守つてくれていたのに。

もうすぐお父さんも帰つてくるし、警察もそのうちお母さんを発見するだろう。そうすればA達のことも話さなければならぬ。少年院なんて行きたくないし、マスコミに騒がれるのも嫌だ。A達に日頃どんなことをされていたか打ち明けたところで、世間では奴らが被害者、僕が加害者なのだ。

もう、いいや。

お父さん、今まで育ててくれてありがとう。

僕はお母さんのところへ行きます。

▼I. 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

II. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

ご存じ日本国憲法第9条の条文である。

▼世界で有数の平和憲法として名高い日本国憲法が制定されたのは、戦後の1946年のことである。その後30年あまり一文字も変わることもなく続いている、日本の平和の象徴である。

▼ただこのことにより矛盾が生じている。そう、自衛隊である。自衛隊といっても明らかに軍隊である。自衛隊は憲法九条で保持を禁止されている戦力に当たらないのかという議論が長いことされてきた。現在は、自衛権のため戦力は違憲ではないとの政

府見解がなされている。

▼最近では自衛隊の海外派遣などがあり、自衛隊は違憲ではないかとの声が高まった。そのたびに政府は憲法解釈を修正して、当てつけのような理屈で逃れてきた。しかし、解釈を都合のいいように変えられる憲法など何の意味も持つのだろうかと思う。いっそ意味をねじ曲げることでできないよう改訂すべきなのではないか。

▼しかし憲法改正の話が出ると、決まって「改悪だ」と言う人たちがいる。しかしほんとに改悪なのだろうか。改善する余地がないほど日本の憲法は完璧なのか。そう問うてみたい。そして憲法を改正するのも改悪するのも自分たちが選んだ政治家なのである。頭ごなしに否定するのは自分の選択を否定しているのと同じではないか。一度ゆだねてみるのもいいのではないか。最後の砦、国民投票はちゃんと用意されているのだから。

第五小隊

二二二 防衛軍

なぜ泣いているの？

どこが痛いのかい？

悲しいことがあったのかい？

それとも、怖いこともあったのかい。

君が苦しいとき、僕は僕を総動員して君を助けに行くよ。

二二二に傷一つさせつけさせやしないぞ。

ほら、だからもう泣かないでよ。

軍占い (以外に当たるお手軽無料占い)

※生年月日を入力してエンターキーを押してね!!

←

←
○1783年3月29日生まれのあなたは.....

☆☆☆アメリカ軍タイプ☆☆☆

「アメリカ軍タイプのキャラ(性格)」 自由奔放で自己主張の強いあなたは、
表舞台にたって活躍できる予感!!

ライバルはねじ伏せて、目指せアメリカンドリーム!!

「相性の良い相手」 従順な日本軍タイプは、あなたの無理な要求にも素直に
答えてくれるでしょう。あなたがもし落ち込んだ時も一緒に悲しんでく
れます。やけ食いはくれぐれも禁物!

「相性の悪い相手」 行動力があり、周りを引っ張ってゆくあなたですが、それを
みたイラク軍タイプの人はうんざり。無理やり推し進めると大変なことに
なりそう..... 周りの意見を尊重して!!

○1991年1月30日生まれのあなたは.....

☆☆☆日本軍タイプ☆☆☆

「日本軍タイプのキャラ(性格)」 あなたはなんだか色々とハッキリしないタイプ
周りの意見に左右されやすく、コロコロと主張を変えるあなたは、ともすると
周りの信頼を失ってしまうことになりかねないのかも?? 自信を持って!!

ワイルドなアメリカ軍タイプにあなたはもう虜!!

プレゼントは実利の有る物(現金や土地も可)をあげると好印象☆

「相性の悪い相手」 中国軍タイプの人と相性が悪いようです。あなたの軽い一言が
反感を買うかも(汗)

○1948年2月16日生まれのあなたは.....

☆☆☆朝鮮軍タイプ☆☆☆

「朝鮮軍タイプのキャラ(性格)」 自分の殻にこもりがち!! 友達がいないわけ
ではないようですが、個性の強いあなたに周りは引き気味... 良く言えば一途な
あなたですが、気がつけば周りから孤立していることも!!

空気を読むことから意識してみましよう。

「相性の良い相手」 人間性の近い韓国軍タイプの人とは良い友達になれそう。

意外とあなたの身近に潜んでいるかも?!

「相性の悪い相手」 日本軍タイプ、アメリカ軍タイプの人と相性激悪!?!

付き合うときは要注意! 自制心を強くもたないと、金銭トラブル続出!

あまり無理な要求をしすぎるのもよくありません。

○2999年19月31日生まれのあなたは.....

☆☆☆未来軍☆☆☆

生まれていません!! ※現世での誕生日を入力してください。

スーパーロボット戦争

ここは戦場。ただし血が流れることのない戦場である。人間が互いに血を流し殺し合う戦争は二一世紀に終わった。しかし争いが人間の世界から消えるわけはなく、彼らは僕らロボットを使って戦争を行っている。血の流れないロボット軍団での戦争の登場は人間世界を更なる高みへ導いた、らしい。「当事者としちゃ大変なだけだね。」

「そんなこと言っていると人工知能書き換えられるわよ。」

「法子の言うとおりだぜ、土門ン。」

…独り言が口に出ていたらしい。「一緒にいる二人に返事されてしまった。この二人は同じ班の法子さんと信二くん。僕は徴兵によって集められたロボット兵士で、二人とはロボット軍団に同じ時期に入団して、同じ班となった。僕ら三人は、元は個人所有のロボットであり、僕と法子さんはよくいる家事手伝いのいわゆるメイドロボ、信二くんは自称要人暗殺用の殺人アンドロイド、らしいけどとてもそんな雰囲気はない。自宅警備員ロボットとかそんなんだ。完全に自分に酔ってるだけの。」

「突っ込むぞ、俺に続けエー！」

別に地位も階級もないのに勝手に仕切っている、明らかに突出しすぎな彼を一人にするわけにもいかず追いかけるが敵と戦う。

入団するにあたって僕らは戦闘用の改造とプログラムによる教育を受ける。ちなみに、僕は右手がドリルになった。

『ドリルは僕の浪漫』っていうけどどうなんだろう…。実際役には立つけど。触れた相手が吹き飛んでゆくのをみると掃除を生業にしてきた僕としては快感を覚えずにはいられない、かも。もしかしてこれが浪漫なのか。とか考えながらドリルで敵を倒す。

「ヒヤッハーツ、この殺人アンドロイド信二様の前に立つものはどのどいつだアーツー！」

…これは痛い。とても見てられない。信二くんは完全に二病全開で単身敵のほうに突っ込み、胴体が真っ二つになった。

僕と法子さんが唖然とする。そこに現れたのは敵軍の将…かの有名なマシーンダーX将軍！

「よくもここまで来れた。だがワシが出てきたからには貴様らの好きにはさせんぞ。ガアーハアー！」

唸るような声で吠え僕らの道を塞ぐ。まずい、信二くんのあとを追っかけてきたらいつの間にか敵陣のど真ん中に入るぞ。

「まずいわね。」

うん、ピンチである。恨むぞ信二…。こういうピンチのとき、ロボットアニメの主人公なら変形や合体等の熱い展開で乗り切るんだろうけどあいに僕にそんな力はない。

「しよがないわね…。土門くん、私の体を使って。」

「え…？」

一瞬なんか卑猥なことを考えてしまった、ごめんさい。でもどういうこと？

「私の体は改造で強力な爆弾になってるの。」

なるほど、つまりそれは

「それじゃあ君は…。」

「構わない。私たちは作られた存在。やるべきことをやるだけよ。」

やるべきこと…ね。僕たちは悲しい存在だ。でも、彼女の覚悟を侮辱するようなことはしたくない。

そうして僕はやるべきことを為した——。

「私の体を好きにしてくれた責任、ちゃんととってよね。」

責任ってなんだよ。

「デメエもスミにおけねえなあ、土門ン。」

スミにおけないってなんだよ。というかなんで生きてるの、君たち。

「英雄は不死身…ってかア？」

「体がいくら壊れようと、人工知能が無事なら体は修復できるわよ。」

なるほど、そういうことか。法子さんが無事なのは良かったとして、あの将軍は頭を狙うべきだったな。

そんなこんなで元通りな僕らだが、無駄に戦果を挙げたおかげで前線が使われることとなり、しばらく落ち着けそうにない。僕たちの戦いはまだまだ続きそうである…。

軍楽にかけた男

た。弱音もたくさん吐いた。

私は最も音楽とは無縁の家系に生まれた。我が家の家系は琉球の使者の接待役の薩摩藩士である。

「何のために俺は軍楽師になるのだ。」

しかし、養子に出されてからは人生が変わった。横浜に行き、欧米の軍楽隊の演奏を聞き感銘を受けた。

岡田大将は言った。

「お前がやらないで誰がやるのだ。めげるな。最後までやり通せ。」

「面白い。俺にもできるはずだ。」

私は必死だった。岡田大将の言葉を胸に、全身から血がにじむぐらい練習をした。岡田大将に励まされて・・・はれて軍楽師になったとき、

そう思った私は、軍楽公募生の募集試験を受けた。勉強も無我夢中であった。無知のところから全てを学ばなければならなかった。そして待ちに待った合格発表。

「俺が日本の軍楽を世界最高のものにして見せる」

「あった

俺の名前があった」

それからの私の人生は音楽一筋になった。来る日も来る日も作曲、演奏と忙しかった。

そう誓った。そして私はある曲の作曲に取り掛かった。勇ましく、日本の海軍に勇気を与えられる曲を・・・

私の恩人といえば、嘗ての総理

「できた。世界に誇れる一曲だ。」

大臣でもあり、海軍大将でもあった岡田啓介大将であろう。軍楽師昇進試験は地獄のようなものであった。つまるところ、将校になるのと同じくらい過酷な試験であっ

多くの人に歌われ、演奏され、戦争が終わってもなお歌い継がれている。先の大戦が忘れられない限り、私の曲は生き続けるだろう。

第九 小隊

ピンポーン。

呼び鈴が鳴ったので玄関の戸を開けると、一人の男が立っていた。

「こんにちは。自衛隊です。」

迷彩服を着ている。何かあるのだろうか。普段私たちの平和を守ってくれているとはいえず、なんだか物騒だな、そう思った私はちよつといじってみることにした。

「あ、どうも。軍人さんが何の用ですか？」

「いや、軍人じゃないですよ。」

「まあ似たようなもんじゃないですか。」

「いや、軍人じゃないですよ。」

「そうですか。ではこれならどうです。」

私は居間からラジカセを持ってきて、『軍艦マーチ』を流した。すると、男の体が音楽に反応している。

「あれれ、軍隊の音楽に反応してますね。やっぱり軍人なんじゃないんですか？」

ここで男は一瞬ハツとした顔を見せ、元の姿勢に戻る。

「いや、軍人じゃないですよ。」

「じゃあ、今の反応はなんですか？」

「いやあ、私はパチンコが好きなのではないですか。」

この音楽、よく店で流れるんですよ。先ほどもよく出ましたね。ははは。」

何遊んでんだよ！

「……。そうですか。ではこれではどうでしょう？」

私は台所へ行き、『軍艦巻き』を取ってきた。イクラが大粒でおいしそうだ。たちまち男の口からよだれがあふれる。

「あれれ、また軍艦に反応してますね。やっぱり軍人じゃないんですか？」

「またもや男は一瞬ハツとした顔を見せ、元の姿勢に戻る。」

「いや、軍人じゃないですよ。」

「じゃあ今の反応はなんですか？」

「はは、実は私、ねぎとろの方が好きなんです。イクラはちよつと苦手なんです。」

お前の好みなんか聞いてねえよ！ 苦手なのに食いたそうな顔すんなよ！

「……。ま、しかしこれではらちが明きませんね。あなたが軍人であることも、ないことも、証明できないというわけです。」

「そうですね。」

「というか、そもそも軍人さんがうちに何の用ですか？」

「いや、軍人じゃないですよ。」

「……。……。何の用です。」

「はい、実はですね、我が自衛隊のミサイルがほんの二十発ほど誤発射されてしまいました、着弾地点がこの家だということが判明したのでパチンコを切り上げてお伝えにあがった次第であります！」

「何い！？ んで、いつ飛んでくるんです！？」

「ええと…話してるうちに結構時間経っちゃったんで、あと四十秒ほどですね。あちゃー、ちよつと逃げないとマズいんで先に逃げさせてもらいます！ がんばって！」

半径一キロ以内は危険ですよ、そう言いながら男は家の前の道を全速力で走ってきたジープに飛び乗って逃げていってしまった。そういうところの訓練はされてるのな。

「…がんばってと言われてもなあ。」

なぜか風が去った後のようなすがすがしさを感じながら空を見上げると、いくつかの飛翔体が轟音をあげてこちらに向かってくるのが見えた。

吾輩は軍鶏である

一、吾輩は軍鶏(しゃも)である。名前はまだ無い。

吾輩は並大抵の鶏ではない。闘鶏のサラブレッドである。闘鶏とは、要するに雄同士の闘いであるが、なにやら人間どもは、その勝敗に金を賭けるようだ。

吾輩は闘いに誇りを持っている。吾輩は只管に勝利を目指している。闘鶏の大会で優勝することだけが吾輩の宿望である。

死を恐れ、怪我を恐れ、武勲を建てぬまま老いて人間に食われるよりは、闘いの中で果てることを選ぶのが良く訓練された闘鶏である。

二、大会である。辺りは喧々囂々として、どの人間も皆、てんでに声を張り上げている。一方で我々鶏はといえば、闘いの雄叫びを他にすれば、概ね静かなものである。

人間の歓声が湧く。怒声が轟く。やれ、待て、逃げるな、追え、追え、そこだ、いけ、やつちまえ、目をつついてしまえ。

はて、吾輩の知る限り、闘鶏では敢えて相手の目をつくことは滅多にしない。もとより急所攻撃がルールで禁じられているわけではないが、露骨な急所攻撃は闘鶏道精神に反する行為とされている。

足に付けた刃で敵の肌を切り裂き、羽を赤く染め、レフエリーの審判が下るか、若しくは相手が死ぬまで続けるのが一般的な闘鶏である。

三、

吾輩の出番である。相手は若い。若さゆえの精力に漲っている。力では勝てぬ。しか

し、吾輩の武器は力ではなく、幾多の闘いの経験である。

開始の合図が鳴る。相手は馬鹿正直に突っ込んで来た。それは予想外に素早く、先制を許してしまう。蹴りが描く刃先の軌道は吾輩の腹を掠め、うっすらと赤く滲む。傷は浅い。

ひとまず距離をとり、威嚇の雄叫びをあげる。相手も負けじ叫ぶ。今度はこちらから突っ込む。刃先は同じく相手の腹を掠める。相手は若干怯むが、すぐさま反撃の一手を返す。

乱戦となる。お互い傷が増え、疲弊してくる。だが徐々に吾輩が押している。相手の動きには無駄が多い。疲れて鈍った蹴りをおわすのは容易い。今、更に一步踏み込み、とどめの一撃を加えようとする。

相手の頭突きを食らう。油断したようだ。吾輩は大きくバランスを崩し、喉元を刃先に曝け出す。死を直感する。避けられない。一つしか無い目を見開き、覚悟を決めた。

しかし、相手は躊躇った。命を奪うことを躊躇った。成程、若者らしい甘えである。かつての自分のような。

そんなものは、闘鶏には不要なのだ。

吾輩はすぐさま体制を立て直し、嘴を相手の右目に突き出した。

四、

斯くして私は優勝を勝ち取り、丁寧に調理され、祭壇に捧げられようとしている。

優勝した闘鶏は、人間の信する神に捧げられる決まりである。人間の信心などは吾輩の与り知らぬことだが、しかし、祭壇に上がることは実に、吾輩にとつても崇高なる宿願であった。

鶏の言葉で言えば、吾輩は今や、闘鶏の神の一員となったのである。

第十一小隊

《軍と戦争の楽園》

新兵の俺は戦争真つ只中の司令部に配属された。キリが付くまでは見学だそう。現在の戦闘相手は通称『クラブのクイーン』部隊、奴らは新素材『フラバー』を使い、圧倒的な防御力を誇っているらしい。

部隊長は「状況はどうだ、菅原。」と通信を始めた。菅原さんとは今回陣頭指揮をとっているとても美人な少佐さんだ。ちなみに部隊長は以前、長根一葱流剣術師範だったらしい。「こちら菅原。今、海岸沿いに進軍中だ。兵に若干の疲労が見られるが、まあ大丈夫だ。」

「そうか。この戦いが終わったら、慰安飲み会を開いて労ってやるよ。」

：そんなフラグっぽいこと言っちゃつていいんですか、部隊長。

「今回はワシが『ねぎめ』を振舞おうじゃないか。ワシの出身地方の郷土料理でな」

「敵と接触！なんだこいつらは！ヒルと人間の合成獣か？まあいい。ケツに鉛玉ぶちこんでや…つていつのケツとだよおおお！」

そんな下品な口調じゃせっかくの美貌が台無しです。というか早速ピンチじゃないですか！部隊長がフラグなんか立てるから！

「至急応援を送る！それまで持ちこたえてくれ！」「海岸沿い：海から行くか。おい、スサノオ」
「人魚計画」の人工鰓はどうなった？」

「それが…。博士、研究データ、実験生物、全てが行方不明だそうです…。今、海軍はそのせいで大慌てだとか。」

「くっ。海からは無理か。ならば、空か。」

「むっ。私の出番の様だな。」

そこに現れたのは…大統領！

「大統領閣下、危険すぎじゃ。おやめ下され。」
「私のことを気にするな。それに…パーティーは主催者がまてなごさうおほな！」

そういつてなぜか赤く塗装されたF-22戦闘機に乗り込んだ。大統領専用機、らしい。

「レッツ、パァリィィィィ！！！」

謎の掛け声とともに戦闘機は大空に飛んで行った。

「：閣下の事など心配しとらんよ。ただ、閣下の存在自体が危険なんじゃよ…。」

なるほど、それには納得だ。あんな人間は大統領をするべきではない。

「さてと、閣下の支援をしますか。…ん？何だこれは？」「閣下、謎の機影が近づいておる！念のため、ご注意を！」

「正面から行くぞ！…む？新兵器か！映像を送る！」

そこに映ったのは、脚6本羽2枚の蠅だった。しかしそれは金属で出来た巨大な蠅、言うならば『金蠅』であった。

こうして金蠅と大統領の空中戦が始まった。

西暦二四〇〇年。

医療の異常発達は戦死者を零にし、科学の異常発達は兵器を無数にし。

兵も兵器も消耗しない戦争が生まれ、そんな戦争に終わりはなかった。

戦いが軍を作り、軍が戦いを創り。

奇妙な人物が軍で好まれ、

奇妙な兵器が軍に好まれ。

軍隊は娯楽化し、戦争は遊戯化し。

そこに死はなく、終焉もない。

《Are you happy?》

第十二小队

『運』

今日は大安吉日で

朝っぱらから快晴で

寢坊も遅刻もすることなく

フランス語の授業では教授にあってられることもなく

昼には食堂の席をギリギリで奪取できた

ただ、運が良かっただけのこと

午後は居眠りしてしまい

板書を写しそびれたと思ったら

折り畳み傘が無い時に

あいにくの通り雨でびしょびしょ

洗濯までして来たのに

ただ、運が悪かっただけのこと

大学近くのコンビニで

雨宿りをしていたら

いつも聞き慣れた声でした

「大丈夫？ずぶぬれだね」

いつも遠目で見ていた彼

いつも横目で見ていた彼

「俺も同じく通り雨の被害者だけだね」

もしも、神様がいるならば聞いてください

ありがとうございます

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	数学の乱	5 pt	7 位	2 sp
		<p>トップバッター、センター入試の数1くんで、まずは小手調べ。 穴埋め→二次関数→三角関数→確率という展開だそうで、なかなか小味の効いたハイセンス表紙でした。 特別賞：時間切れで賞 from Radiant班（割と良くある光景です） また来年頑張りま賞 from U-Boat班（仮面浪人？） イチオシフレーズ：「数学の乱」</p>		
02	孤軍日記	2 pt	8 位	1 sp
		<p>うわ暗っ、なりアルいじめ描写で引き込まれます。これでもかの暗鬱攻撃がじわじわ来ますね。 ちょっとナイフの登場が早すぎかなあ。引っ張って引っ張ってラストにぐさり、のほうが効果的なのは。 特別賞：来週殺せないからで賞 from KYURI班 イチオシフレーズ：「そこから先はよく覚えていない。」</p>		
03	無題（憲法九条）	0 pt	11 位	0 sp
		<p>推奨したい正統派。憲法引用で、きっちり論点整理の綿密な仕事ぶりが光りました。 こうした論説文は筆者の主張が何より重要なので、改憲主張のその先に、どちらに改憲したいのか（自衛隊合憲vs違憲）という点まで論及があると、より良かったのでは。</p>		
04	グリーンハイツ防衛戦	9 pt	3 位	0 sp
		<p>いやこれ地上げ屋さんたち、逆にかわいそ過ぎでしょ。 そんな最強防衛軍がたむろするのが場末（たぶん）の喫茶店という落差がすてきです。 爽快痛快豪速球。疾走感とともにブロンズメダル&イチオシフレーズ大賞ゲットです。おめでとう!! イチオシフレーズ：「きゅうりしかねえ！」×2 「ヤンデレはやめてえええ」</p>		
05	こころ防衛軍	1 pt	10 位	0 sp
		<p>決めフレーズはシンプルだからこそ映えるのです。 「僕は僕を総動員して君を助けに行くよ」のインパクト大。 言ってみたい？ 言われてみたい？</p>		
06	軍占い	7 pt	4 位	0 sp
		<p>これはまたユニークな。 アメリカ・日本・北朝鮮。大胆にも占いに仕立てちゃうんですか。うまいうまい。 生年月日など各所にネタが仕込まれてて、深読み歓迎モードな「引き」がナイス。 イチオシフレーズ：「プレゼントは実利のある物（現</p>		

		金や土地も可)」「以外に当たるお手軽無料占い」
07	スーパーロボット戦争	0 pt 11 位 0 sp ドリルと掃除のリンクとか、細部の凝りようが楽しいです。で、どんなふうに「やるべきこと」が完遂されたのかも見せてほしかったところ。 こんなに力作なのに読みにくいレイアウトがほんともったいない。 イチオシフレーズ：「私の体を使って」「ドリルは漢の浪漫」
08	軍楽にかけた男	6 pt 5 位 0 sp 軍楽という異色ジャンル狙いの発想が良かったです。ただ、軍楽ならではという「その場性」を出すには、岡田大将だけではなくて、もっと細部を固める必要がありそう。 軍艦マーチ誕生に至る実話、でした。
09	ピンポン。	2 pt 8 位 2 sp コントのようなナンセンストークが、とってもシュールです。 オチもズドンと決まって爽やか。爽やか？ 特別賞：90 /hで逃げま賞 from Syamo班 (1 ÷ 40 秒) タイトルは「ピンポン。」で賞 from WW 班 イチオシフレーズ：「いえ、軍人じゃないですよ」
10	吾輩は軍鶏である	12 pt 1 位 0 sp これはすごい。みごとに成り切ったの細部描写がド迫力で、ぐいぐい引き込まれました。 調査力、ですね。ほんとうによく調べて、かつムダなく緻密に構成されていて語り口も堂に入って、まさにゴールドメダルの栄冠にふさわしい仕上がりでした。 おめでとう!!!
11	《軍と戦争の楽園》	6 pt 5 位 3 sp うーん、どうなんだろう。在庫ネタの詰め合わせセット。まったくネタを知らないTA-OGワニさんからは、ギクシャクしてると冷静なるご指摘が。 お茶会や打ち上げパーティではいいけど、本選で勝負を賭けるもんなのかな？ まあ、話題をさらって最多特別賞が咲きましたので、めでたしめでたし、ということで。 特別賞：闇鍋賞 from Uh~PATCHOVLI班 (今までに本番セッションに出たものがいっぱい登場したから) ボーダーのはるか向こう側で賞 from Victory班 (完全にアウト) コラム大作品集賞 from ドリル班 (いろいろ入ってるし)
12	『運』	10 pt 2 位 2 sp 殺伐セッション、ラストはほのぼのの終わりましたよ。 不運が幸運を連れてきた。 とってもシンプル、だからほっこりハートウォーミング、シルバーメダルおめでとう！おしあわせにね ☆……と、キレイな心では読める……はず！ 特別賞：BoysLoveで賞 from ハーケンクロイツ班 (ここは東工大のようなので二重のいみで) 甘ずっぱいで賞 from BIO HAZARD班 (男の子目線ですよ ね……。)

